



平成23年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年5月13日
上場取引所 東

上場会社名 安藤建設株式会社
コード番号 1816 URL <http://www.ando-corp.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野村 俊明

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 平澤 浩久

定時株主総会開催予定日 平成23年6月29日 配当支払開始予定日 平成23年6月30日

有価証券報告書提出予定日 平成23年6月29日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

TEL 03-3457-9213
平成23年6月30日

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期の連結業績(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期 | 160,389 | 0.4 | 1,042 | △60.6 | 224 | △86.9 | △4,823 | — |
| 22年3月期 | 159,725 | △29.4 | 2,644 | △37.9 | 1,706 | △46.0 | 646 | 3.8 |

(注) 包括利益 23年3月期 △4,854百万円 (—%) 22年3月期 1,185百万円 (—%)

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 | 自己資本当期純利益 率 | 総資産経常利益率 | 売上高営業利益率 |
|--------|------------|-----------------------|----------------|----------|----------|
| | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 23年3月期 | △58.32 | — | △20.8 | 0.2 | 0.7 |
| 22年3月期 | 7.81 | — | 2.5 | 1.1 | 1.7 |

(参考) 持分法投資損益 23年3月期 ー百万円 22年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|--------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 23年3月期 | 127,496 | 20,861 | 16.1 | 248.28 |
| 22年3月期 | 133,168 | 26,130 | 19.4 | 312.31 |

(参考) 自己資本 23年3月期 20,534百万円 22年3月期 25,830百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動によるキャッシュ・フロー | 投資活動によるキャッシュ・フロー | 財務活動によるキャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物期末残高 |
|--------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 23年3月期 | 11,493 | 410 | △8,027 | 22,192 |
| 22年3月期 | 374 | △3,006 | △6,009 | 18,355 |

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | 配当金総額 (合計) | 配当性向 (連結) | 純資産配当 率(連結) |
|------------|--------|--------|--------|------|------|---------------|--------------|----------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 22年3月期 | — | — | — | 5.00 | 5.00 | 413 | 64.0 | 1.6 |
| 23年3月期 | — | — | — | 1.50 | 1.50 | 124 | — | 0.5 |
| 24年3月期(予想) | — | — | — | — | — | — | — | — |

(注) 当社は定款において期末日を基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。
詳細は、2ページ「1. 経営成績(3)利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当」をご覧ください。

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期 純利益 |
|-----------|---------|-----|-------|-------|-------|---|-------|---|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 77,700 | 7.1 | 900 | — | 400 | — | 200 | — | 2.42 |
| 通期 | 170,000 | 6.0 | 3,200 | 206.9 | 2,600 | — | 1,000 | — | 12.09 |

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
 ② ①以外の変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|--------|--------------|--------|--------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 23年3月期 | 85,488,000 株 | 22年3月期 | 85,488,000 株 |
| ② 期末自己株式数 | 23年3月期 | 2,780,694 株 | 22年3月期 | 2,780,007 株 |
| ③ 期中平均株式数 | 23年3月期 | 82,707,363 株 | 22年3月期 | 82,708,629 株 |

(注)1株当たり当期純利益(連結)の算定の基礎となる株式数については、31ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考)個別業績の概要

1. 平成23年3月期の個別業績(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期 | 152,880 | 1.5 | 693 | △64.7 | 101 | △91.9 | △4,839 | — |
| 22年3月期 | 150,677 | △28.9 | 1,965 | △41.6 | 1,255 | △57.8 | 412 | △23.1 |

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 |
|--------|------------|-------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期 | △58.51 | — |
| 22年3月期 | 4.99 | — |

(2) 個別財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|--------|---------|---|--------|---|--------|----------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | % | 円 銭 |
| 23年3月期 | 119,947 | | 18,913 | | 15.8 | 228.68 |
| 22年3月期 | 124,845 | | 24,199 | | 19.4 | 292.59 |

(参考) 自己資本 23年3月期 18,913百万円 22年3月期 24,199百万円

2. 平成24年3月期の個別業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|---------|-----|-------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 73,400 | 7.2 | 200 | — | 100 | — | 1.21 |
| 通期 | 160,000 | 4.7 | 2,300 | — | 900 | — | 10.88 |

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、2ページ「1. 経営成績(1)経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 1. 経営成績 | 2 |
| (1) 経営成績に関する分析 | 2 |
| (2) 財政状態に関する分析 | 3 |
| (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 | 4 |
| 2. 企業集団の状況 | 5 |
| 3. 経営方針 | 6 |
| (1) 会社の経営の基本方針 | 6 |
| (2) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題 | 6 |
| 4. 連結財務諸表 | 7 |
| (1) 連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 | 9 |
| 連結損益計算書 | 9 |
| 連結包括利益計算書 | 11 |
| (3) 連結株主資本等変動計算書 | 12 |
| (4) 連結キャッシュ・フロー計算書 | 14 |
| (5) 継続企業の前提に関する注記 | 16 |
| (6) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 16 |
| (7) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更 | 20 |
| (8) 表示方法の変更 | 21 |
| (9) 追加情報 | 21 |
| (10) 連結財務諸表に関する注記事項 | 22 |
| (連結貸借対照表関係) | 22 |
| (連結損益計算書関係) | 23 |
| (連結包括利益計算書関係) | 24 |
| (連結株主資本等変動計算書関係) | 25 |
| (連結キャッシュ・フロー計算書関係) | 26 |
| (セグメント情報等) | 27 |
| (1株当たり情報) | 31 |
| (重要な後発事象) | 31 |
| (開示の省略) | 31 |
| 5. 個別財務諸表 | 32 |
| (1) 貸借対照表 | 32 |
| (2) 損益計算書 | 34 |
| (3) 株主資本等変動計算書 | 36 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 39 |
| 6. その他 | 39 |
| (1) 個別受注の概況 | 39 |

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

当期の経営成績

(単位：百万円)

| | 当期予想 (H23. 3. 11発表) | 当期実績 | 予想比 増減額 | 前期実績 | 前年同期 増減額 |
|-------|------------------------|---------|------------|---------|-------------|
| 売上高 | 161,000 | 160,389 | △610 | 159,725 | 663 |
| 経常利益 | 300 | 224 | △75 | 1,706 | △1,481 |
| 当期純利益 | △4,800 | △4,823 | △23 | 646 | △5,469 |

当連結会計年度は、海外景気の下振れ懸念や失業率の高止まりなどの国内景気を下押しするリスクを抱えつつも、国内の景気は企業収益の改善などにより緩やかな回復を続け、年度後半には一時鈍化した改善テンポも持ち直しつつありました。しかしながら、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震は広範囲に甚大な被害を及ぼし、景気回復に与える影響が懸念される中で当年度末を迎えることとなりました。当社グループの中核たる当社が属する建設業界におきましては、設備投資、住宅投資は持ち直しつつあるものの、その動きは弱く、また公共投資も縮減が続くなど、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループの連結業績につきましては、売上高は前期比0.4%増の160,389百万円、営業利益は前期比60.6%減の1,042百万円、経常利益は前期比86.9%減の224百万円となり、当期純損失は投資有価証券評価損及び希望退職制度の実施に伴う割増加算退職金の計上、並びに繰延税金資産の取崩等により、4,823百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〈建設事業〉

完成工事高は前期比0.8%増の150,252百万円、完成工事総利益は労務・資材費低下の弱まり等による完成工事総利益率の低下により、前期比21.9%減の8,537百万円となりました。また、当社個別の受注高は、前期比17.6%減の140,353百万円となりました。

〈不動産事業〉

売上高は前期比4.7%減の10,136百万円、不動産事業総利益は前期比30.9%増の1,439百万円となりました。

次期の見通し

(単位：百万円)

| | 通期予想 | 当期実績 | 増減額 | 増減率 |
|------------|---------|---------|--------|----------|
| 売上高 | 170,000 | 160,389 | 9,610 | 6.0% |
| 営業利益 | 3,200 | 1,042 | 2,157 | 206.9% |
| 経常利益 | 2,600 | 224 | 2,375 | 1,059.6% |
| 当期純利益 | 1,000 | △4,823 | 5,823 | — % |
| 1株当たり当期純利益 | 12.09円 | △58.32円 | 70.41円 | — % |

次期の見通しにつきましては、東日本大震災の影響が不透明ではあるものの、民間の設備投資、住宅投資、公共投資は、資本ストックの復元に向けた動きなどから徐々に増加していくとみられますが、国際的な原材料価格の高騰を反映した建設資材費上昇も懸念されることから、引き続き厳しい経営環境が続くと思われまます。

当社グループにおきましては、希望退職制度の実施、人事・給与制度の見直し、並びに経費の効率化等の構造改革による17億円の固定費削減を始め、事業部に対する受注・技術等を統括・管理する「事業統括本部」の新設等により、競争力・収益力の強化を一層進めることで、業績向上に取り組んでまいります。また、震災からの一日も早い復興に向けて建設産業の社会的使命を果たすとともに、東北地方への支援活動にも引き続き取り組んでまいります。

これらを踏まえ、次期の連結業績につきましては、売上高170,000百万円、営業利益3,200百万円、経常利益2,600百万円、当期純利益1,000百万円となる見通しです。なお、当社個別の受注高につきましては、150,000百万円を予想しております。

(2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の状況

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 | 増減 |
|---------|---------|---------|--------|
| 流動資産 | 83,297 | 82,554 | △742 |
| 固定資産 | 49,870 | 44,941 | △4,928 |
| 資産合計 | 133,168 | 127,496 | △5,671 |
| 流動負債 | 81,934 | 87,319 | 5,384 |
| 固定負債 | 25,102 | 19,315 | △5,787 |
| 負債合計 | 107,037 | 106,634 | △403 |
| 純資産 | 26,130 | 20,861 | △5,268 |
| 負債純資産合計 | 133,168 | 127,496 | △5,671 |

当連結会計年度末の資産につきましては、前期末比5,671百万円減少の127,496百万円となりました。流動資産は前期末比742百万円減少の82,554百万円、固定資産は前期末比4,928百万円減少の44,941百万円となりました。

流動資産減少の主な要因は、不動産事業支出金の減少4,618百万円が、現金預金の増加3,837百万円を上回ったことによるものであり、固定資産減少の主な要因は、投資有価証券の減少2,637百万円及び繰延税金資産の減少1,103百万円によるものであります。

当連結会計年度末の負債につきましては、前期末比403百万円減少の106,634百万円となりました。流動負債は前期末比5,384百万円増加の87,319百万円、固定負債は前期末比5,787百万円減少の19,315百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、支払手形・工事未払金等の増加3,858百万円及び希望退職制度引当金の増加1,329百万円が、短期借入金の減少1,636百万円を上回ったことによるものであり、固定負債減少の主な要因は、長期借入金の減少5,118百万円及び社債の減少650百万円によるものであります。

当連結会計年度末の純資産につきましては、前期末比5,268百万円減少の20,861百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少5,196百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は前期末比3.3ポイント減少の16.1%、また、1株当たり純資産額は64.03円減少の248.28円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

| | 前期 | 当期 | 増減 |
|---------------------|--------|--------|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 374 | 11,493 | 11,119 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,006 | 410 | 3,417 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △6,009 | △8,027 | △2,017 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 100 | △38 | △139 |
| 現金及び現金同等物の増加・減少(△)額 | △8,541 | 3,837 | 12,379 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 26,896 | 18,355 | △8,541 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 18,355 | 22,192 | 3,837 |

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ3,837百万円増加し22,192百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の減少5,480百万円及び仕入債務の増加3,888百万円による収入超過が、売上債権の増加2,218百万円による支出超過を上回ったこと等により、11,493百万円の収入超過となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却及び償還による収入600百万円及び有形固定資産の売却による収入524百万円が、貸付けによる支出660百万円を上回ったこと等により、410百万円の収入超過となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出10,779百万円及び社債の償還による支出770百万円が、長期借入れによる収入2,300百万円及び短期借入金の純増加額1,725百万円を上回ったこと等により、8,027百万円の支出超過となりました。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

| | 平成19年3月期 | 平成20年3月期 | 平成21年3月期 | 平成22年3月期 | 平成23年3月期 |
|----------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 自己資本比率 (%) | 15.2 | 15.8 | 14.8 | 19.4 | 16.1 |
| 時価ベースの自己資本比率 (%) | 10.1 | 7.2 | 6.0 | 8.2 | 8.2 |
| 債務償還年数 (年) | 4.2 | 23.8 | — | 119.5 | 3.2 |
| インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍) | 10.3 | 1.6 | — | 0.3 | 11.8 |

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しています。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しています。

※ 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち、短期借入金、社債及び長期借入金を対象としています。

※ 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しており、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しています。

(3) 利益分配に関する基本方針及び当期・次期の配当

利益分配につきましては、株主に対する利益還元を経営上の最重要課題の一つと考え、業績の変化に対応しつつ安定的な利益分配を継続することを配当政策の基本としています。また、財務体質の改善を図りながら、競争力強化に向けた研究開発投資等を図るための内部留保の充実にも努めていく方針であります。

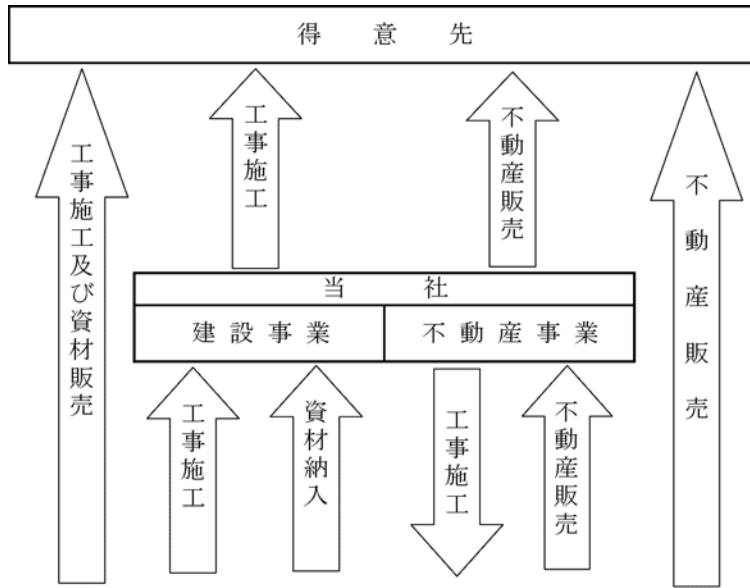
当期の配当につきましては、当期業績及び今後の経営環境等を総合的に判断し、1株当たり1.5円の年間配当を予定しております。また、次期の配当につきましては、経営環境の先行きが不透明なことから、今後の状況を見極めた上でお知らせいたします。

2. 企業集団の状況

当社グループは、建設事業及び不動産事業を主な事業内容としています。
 当社グループの事業に係わる位置付け及び事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。
 なお、事業の種類別セグメントと同一の区分であります。

- 建設事業 建設事業は、当社及びアドテクノ(株)、(株)エビラ、タイアンドウコンストラクション、アンドウシンガポール、アンドウマレーシア、ペンビナンアンドウ、他4社が営んでおり、当社はアドテクノ(株)、(株)エビラに工事の一部を発注しています。
- 不動産事業 不動産事業は、当社及び菱晃開発(株)、アドテクノ(株)、310・2号特定目的会社、他2社が営んでおり、当社は菱晃開発(株)、アドテクノ(株)、310・2号特定目的会社から工事の一部を受注しています。

事業の系統図は次のとおりであります。



| 建設事業 | 不動産事業 |
|--|--|
| 連結子会社 アドテクノ(株) (株)エビラ タイアンドウコンストラクション アンドウシンガポール アンドウマレーシア ペンビナンアンドウ 非連結子会社 4社 | 連結子会社 菱晃開発(株) アドテクノ(株) 310・2号特定目的会社 非連結子会社 2社 |

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「新たな価値と豊かな環境の創造」を経営の基本方針として掲げ、社会と顧客への貢献と関係者満足の上昇を図るとともに、グループ各社の自立と相互協力による利益の最大化を目指しております。

(2) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

グループの中核である当社では、2009年度を初年度とする3ヵ年の中期経営計画「ADV（アドバリュー）2011」に基づき、「高い総合力を誇るVALUE創造専門家集団として、お客様満足度を高め続ける企業」と、「高い品質と健全性で社会からの信頼を高め続ける企業」を中期ビジョンとして掲げ、あらゆる活動を変革し、新たな価値を提供する仕組みをつくりあげることで、成長の礎を構築することを目指しております。

具体的には、成長に向けて事業のありかた・やり方を変革する「事業構造・事業プロセスの改革」、総合力によって市場優位性を確保・強化する「お客様満足力の強化」、財務改革・CSRの取組み強化により経営基盤を安定化する「企業健全性の向上」、持続的な成長基盤の確立のための新たな価値の創造ができる「人材育成と技術強化」に取り組んでおります。

注力分野としましては、将来性・市場性が高く、当社が強みを持ち、特に競争力を維持し高める分野として、生産・物販・物流施設等の産業施設を中心とした「技術提案対応分野」、「医療・シルバー分野」、「ストック市場関連分野」の3つを掲げ、建設・不動産・環境の各事業が選択と集中を進めて収益力を高めるとともに、建設事業とのシナジー（相乗効果）を高めることで、全社の総合力向上を目指しております。

また、東亜建設工業株式会社との業務提携並びに株式会社間組との資本業務提携におきましては、両社との事業協力、共同受注、共同技術開発等の協力関係を積極的に推し進め、持続的な成長と企業価値の増大を目指しております。

なお、ADV2011の目標数値は、平成24年3月期の個別業績予想値にローリングいたします。

4. 連結財務諸表
(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (平成23年3月31日) |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 18,603 | 22,440 |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 40,708 | 44,214 |
| 販売用不動産 | 2,290 | 1,428 |
| 未成工事支出金 | 2,103 | 1,077 |
| 不動産事業支出金 | 9,618 | 4,999 |
| 繰延税金資産 | 442 | 1,183 |
| その他 | 9,626 | 7,284 |
| 貸倒引当金 | △96 | △73 |
| 流動資産合計 | 83,297 | 82,554 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物・構築物 | ※1 20,643 | ※1 20,588 |
| 土地 | ※1, ※2 17,410 | ※1, ※2 16,900 |
| その他 | 2,437 | 2,517 |
| 減価償却累計額 | △11,336 | △12,119 |
| 有形固定資産合計 | 29,155 | 27,887 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 261 | 150 |
| のれん | 484 | 432 |
| その他 | 253 | 255 |
| 無形固定資産合計 | 1,000 | 838 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | ※3 14,117 | ※3 11,480 |
| 繰延税金資産 | 3,748 | 2,644 |
| その他 | 4,463 | 3,758 |
| 貸倒引当金 | △2,613 | △1,666 |
| 投資その他の資産合計 | 19,715 | 16,216 |
| 固定資産合計 | 49,870 | 44,941 |
| 資産合計 | 133,168 | 127,496 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (平成23年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 40,785 | 44,643 |
| 短期借入金 | ※1 28,066 | ※1 26,430 |
| 1年内償還予定の社債 | 770 | 650 |
| 未払法人税等 | 291 | 184 |
| 繰延税金負債 | — | 0 |
| 未成工事受入金 | 7,492 | 8,078 |
| 完成工事補償引当金 | 146 | 539 |
| 賞与引当金 | 490 | 22 |
| 工事損失引当金 | 80 | 533 |
| 希望退職制度引当金 | — | 1,329 |
| 災害損失引当金 | — | 112 |
| その他 | 3,811 | 4,795 |
| 流動負債合計 | 81,934 | 87,319 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 3,875 | 3,225 |
| 長期借入金 | ※1 11,988 | ※1 6,870 |
| 繰延税金負債 | 1 | — |
| 再評価に係る繰延税金負債 | ※2 4,721 | ※2 4,693 |
| 退職給付引当金 | 3,283 | 3,248 |
| その他 | 1,233 | 1,278 |
| 固定負債合計 | 25,102 | 19,315 |
| 負債合計 | 107,037 | 106,634 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 8,985 | 8,985 |
| 資本剰余金 | 5,474 | 5,474 |
| 利益剰余金 | 7,919 | 2,723 |
| 自己株式 | △459 | △459 |
| 株主資本合計 | 21,920 | 16,724 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 810 | 775 |
| 繰延ヘッジ損益 | △8 | △7 |
| 土地再評価差額金 | ※2 3,033 | ※2 2,993 |
| 為替換算調整勘定 | 75 | 48 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,910 | 3,810 |
| 少数株主持分 | 299 | 327 |
| 純資産合計 | 26,130 | 20,861 |
| 負債純資産合計 | 133,168 | 127,496 |

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|------------|--|--|
| 売上高 | | |
| 完成工事高 | ※1 149,094 | ※1 150,252 |
| 不動産事業売上高 | 10,630 | 10,136 |
| 売上高合計 | 159,725 | 160,389 |
| 売上原価 | | |
| 完成工事原価 | ※6 138,167 | ※6 141,715 |
| 不動産事業売上原価 | ※2 9,530 | ※2 8,696 |
| 売上原価合計 | 147,698 | 150,411 |
| 売上総利益 | | |
| 完成工事総利益 | 10,926 | 8,537 |
| 不動産事業総利益 | 1,099 | 1,439 |
| 売上総利益合計 | 12,026 | 9,977 |
| 販売費及び一般管理費 | ※3 9,382 | ※3 8,934 |
| 営業利益 | 2,644 | 1,042 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 39 | 36 |
| 受取配当金 | 162 | 152 |
| 受取保険金 | 15 | 29 |
| 匿名組合投資利益 | 57 | — |
| 還付消費税等 | 159 | 44 |
| 受取遅延損害金 | 67 | 56 |
| その他 | 46 | 70 |
| 営業外収益合計 | 547 | 389 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,152 | 952 |
| 手形売却損 | 40 | — |
| コミットメントフィー | 158 | 118 |
| その他 | 134 | 136 |
| 営業外費用合計 | 1,485 | 1,207 |
| 経常利益 | 1,706 | 224 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-----------------------------|--|--|
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 294 | 332 |
| 投資有価証券売却益 | 244 | 265 |
| その他 | 17 | 67 |
| 特別利益合計 | 556 | 665 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | ※4 41 | ※4 86 |
| 投資有価証券評価損 | 313 | 2,095 |
| 貸倒引当金繰入額 | 968 | 201 |
| 希望退職制度引当金繰入額 | — | 1,329 |
| 土地売却損 | 40 | — |
| その他 | ※5 292 | ※5 1,093 |
| 特別損失合計 | 1,656 | 4,805 |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△) | 606 | △3,916 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 362 | 219 |
| 法人税等調整額 | △369 | 659 |
| 法人税等合計 | △6 | 879 |
| 少数株主損益調整前当期純損失(△) | — | △4,795 |
| 少数株主利益又は少数株主損失(△) | △32 | 27 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 646 | △4,823 |

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-------------------|--|--|
| 少数株主損益調整前当期純損失(△) | — | △4,795 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | — | △34 |
| 繰延ヘッジ損益 | — | 1 |
| 為替換算調整勘定 | — | △26 |
| その他の包括利益合計 | — | ※2 △59 |
| 包括利益 | — | ※1 △4,854 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | — | △4,882 |
| 少数株主に係る包括利益 | — | 27 |

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 8,985 | 8,985 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | — |
| 当期末残高 | 8,985 | 8,985 |
| 資本剰余金 | | |
| 前期末残高 | 5,474 | 5,474 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | △0 | — |
| 当期変動額合計 | △0 | — |
| 当期末残高 | 5,474 | 5,474 |
| 利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 7,727 | 7,919 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 646 | △4,823 |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 当期変動額合計 | 192 | △5,196 |
| 当期末残高 | 7,919 | 2,723 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | △458 | △459 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 当期変動額合計 | △0 | △0 |
| 当期末残高 | △459 | △459 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 21,728 | 21,920 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 646 | △4,823 |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 当期変動額合計 | 192 | △5,196 |
| 当期末残高 | 21,920 | 16,724 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 263 | 810 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 546 | △34 |
| 当期変動額合計 | 546 | △34 |
| 当期末残高 | 810 | 775 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|----------------------|--|--|
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 前期末残高 | — | △8 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △8 | 1 |
| 当期変動額合計 | △8 | 1 |
| 当期末残高 | △8 | △7 |
| 土地再評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 2,949 | 3,033 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 84 | △40 |
| 当期変動額合計 | 84 | △40 |
| 当期末残高 | 3,033 | 2,993 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 前期末残高 | 47 | 75 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 27 | △26 |
| 当期変動額合計 | 27 | △26 |
| 当期末残高 | 75 | 48 |
| その他の包括利益累計額合計 | | |
| 前期末残高 | 3,260 | 3,910 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 649 | △99 |
| 当期変動額合計 | 649 | △99 |
| 当期末残高 | 3,910 | 3,810 |
| 少数株主持分 | | |
| 前期末残高 | 154 | 299 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 145 | 27 |
| 当期変動額合計 | 145 | 27 |
| 当期末残高 | 299 | 327 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 25,143 | 26,130 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失（△） | 646 | △4,823 |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 795 | △72 |
| 当期変動額合計 | 987 | △5,268 |
| 当期末残高 | 26,130 | 20,861 |

(4)連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-----------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△) | 606 | △3,916 |
| 減価償却費 | 1,051 | 1,140 |
| 減損損失 | 41 | 86 |
| のれん償却額 | 39 | 52 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △2,733 | △968 |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少) | △24 | △34 |
| 災害損失引当金の増減額(△は減少) | — | 112 |
| 希望退職制度引当金の増減額(△は減少) | — | 1,329 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △585 | △467 |
| 完成工事補償引当金の増減額(△は減少) | △64 | 393 |
| 工事損失引当金の増減額(△は減少) | △12 | 452 |
| 受取利息及び受取配当金 | △201 | △188 |
| 支払利息 | 1,152 | 952 |
| 為替差損益(△は益) | 3 | 12 |
| 有形固定資産売却損益(△は益) | 88 | △59 |
| 投資有価証券評価損益(△は益) | 313 | 2,095 |
| 投資有価証券売却損益(△は益) | △242 | △265 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 34,805 | △2,218 |
| 未成工事支出金の増減額(△は増加) | 4,732 | 1,026 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 530 | 5,480 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △22,571 | 3,888 |
| 未成工事受入金の増減額(△は減少) | △7,463 | 589 |
| その他 | △7,968 | 3,103 |
| 小計 | 1,495 | 12,597 |
| 利息及び配当金の受取額 | 208 | 189 |
| 利息の支払額 | △1,184 | △974 |
| 法人税等の支払額 | △145 | △318 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 374 | 11,493 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △394 | △411 |
| 定期預金の払戻による収入 | 293 | 411 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △615 | △84 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 65 | 524 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △64 | △52 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △1,537 | △221 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 1,622 | 600 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △2,247 | — |
| 貸付けによる支出 | △392 | △660 |
| 貸付金の回収による収入 | 496 | 404 |
| その他 | △232 | △98 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,006 | 410 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|----------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △1,925 | 1,725 |
| 社債の発行による収入 | 500 | — |
| 社債の償還による支出 | △855 | △770 |
| 長期借入れによる収入 | 7,150 | 2,300 |
| 長期借入金の返済による支出 | △10,394 | △10,779 |
| 配当金の支払額 | △413 | △413 |
| その他 | △71 | △89 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △6,009 | △8,027 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 100 | △38 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △8,541 | 3,837 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 26,896 | 18,355 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | ※ 18,355 | ※ 22,192 |

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし。

(6) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---------------------|--|---|
| 1 連結の範囲に関する事項 | <p>(1) 連結子会社数8社 連結子会社名は、「2 企業集団の状況」に記載のとおり。 310・2号特定目的会社については、追加の出資により新たに子会社となったため、当連結会計年度から連結の範囲に含めている。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社はない。 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外している。</p> | <p>(1) 連結子会社数8社 連結子会社名は、「2 企業集団の状況」に記載のとおり。</p> <p>(2) 同左</p> |
| 2 持分法の適用に関する事項 | <p>(1) 非連結子会社及び関連会社に対する投資については持分法を適用していない。 持分法非適用の主要な非連結子会社はない。 持分法非適用の主要な関連会社名 おおたかの森PFI(株)</p> <p>(2) 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外している。</p> | <p>(1) 同左</p> <p>(2) 同左</p> |
| 3 連結子会社の事業年度等に関する事項 | <p>連結子会社アドテクノ(株)、菱見開発(株)、(株)エビラの決算日は、連結決算日と同様3月31日である。また、タイアンドウコンストラクション、アンドウシンガポール、アンドウマレーシア及びペンビナンアンドウの決算日は12月31日、310・2号特定目的会社の決算日は1月31日であるが、連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用している。ただし、連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っている。</p> | 同左 |

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|--|---|---|
| <p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> | <p>イ 有価証券 子会社株式及び関連会社株式（非連結） 移動平均法による原価法 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している） 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>ロ デリバティブ 時価法</p> <p>ハ たな卸資産 販売用不動産 個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） 未成工事支出金 個別法による原価法 不動産事業支出金 個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定） 材料貯蔵品 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p> <p>イ 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法 ロ 無形固定資産（リース資産を除く） ソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法 ハ リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。</p> | <p>イ 有価証券 子会社株式及び関連会社株式（非連結） 同左 その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左</p> <p>ロ デリバティブ 同左</p> <p>ハ たな卸資産 販売用不動産 同左 未成工事支出金 同左 不動産事業支出金 同左 材料貯蔵品 同左</p> <p>イ 有形固定資産（リース資産を除く） 同左 ロ 無形固定資産（リース資産を除く） 同左 ハ リース資産 同左</p> |

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-----------------|---|--|
| (3) 重要な引当金の計上基準 | <p>イ 貸倒引当金 完成工事未収入金、受取手形、貸付金等債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。</p> <p>ロ 完成工事補償引当金 完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、補償見積額を計上している。</p> <p>ハ 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支払いに充てるため、将来の支給見込額を計上している。</p> <p>ニ 工事損失引当金 当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれるものについて、将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上している。</p> <p>ホ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。</p> <p>過去勤務債務は、発生した連結会計年度に全額費用処理している。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理している。</p> <p>また、親会社は確定給付型企业年金制度を採用しているが、連結子会社では当制度は採用していない。</p> <p>（会計方針の変更） 当連結会計年度より「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用している。これによる連結財務諸表に与える影響はない。</p> | <p>イ 貸倒引当金 同左</p> <p>ロ 完成工事補償引当金 同左</p> <p>ハ 賞与引当金 同左</p> <p>ニ 工事損失引当金 同左</p> <p>ホ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上している。</p> <p>過去勤務債務は、発生した連結会計年度に全額費用処理している。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理している。</p> <p>また、親会社は確定給付型企业年金制度を採用しているが、連結子会社では当制度は採用していない。</p> <p>（追加情報） 国内連結子会社のうち1社は、確定拠出年金法の施行に伴い、平成22年12月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号 平成14年1月31日）を適用している。</p> <p>本移行に伴う影響額は、特別損失として8百万円計上されている。</p> <p>ヘ 希望退職制度引当金 希望退職制度の実施に伴い、今後発生が見込まれる割増加算退職金および関連費用の支出に備えるため、当該見込額を計上している。</p> |

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|--------------------|---|--|
| (4) 重要な収益及び費用の計上基準 | <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用している。</p> <p>（会計方針の変更） 当連結会計年度より「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用している。なお、平成21年3月31日以前に着手した工事契約のうち、長期大規模工事（請負金1億円以上かつ工期1年超）については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を引き続き適用している。</p> <p>これにより、当連結会計年度に係る完成工事高は4,195百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ182百万円増加している。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載している。</p> | <p>ト 災害損失引当金 災害による設備投資損傷等に伴い、翌連結会計年度以降に見込まれる設備復旧費用等の支出に備えるため、当該見込額を計上している。</p> <p>完成工事高及び完成工事原価の計上基準 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準（工事の進捗度の見積りは原価比例法）を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用している。</p> |
| (5) 重要なヘッジ会計の方法 | <p>イ ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっている。 また、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は、特例処理を採用している。</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 スワップ、オプション、為替予約 ヘッジ対象 外貨建取引、借入金利息の支払</p> <p>ハ ヘッジ方針 デリバティブ取引は社内管理規程に従い、特定の資産及び負債の有する為替変動又は金利変動のリスクを、保有期間を通して効果的にヘッジする目的で利用している。</p> | <p>イ ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>ハ ヘッジ方針 同左</p> |

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---|---|--|
| (6) のれんの償却方法及び償却期間 (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 | <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ手段とヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の比較による有効性評価を6ヶ月ごとに実施している。 なお、金利スワップの特例処理に関しては、有効性評価は省略している。</p> <p>—————</p> <p>—————</p> <p>消費税等の会計処理 消費税等に相当する額の会計処理は、税抜方式によっている。</p> | <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>10年間の均等償却を行っている。</p> <p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。 消費税等の会計処理 同左</p> |
| 5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 | 連結子会社の資産及び負債の評価は全面時価評価法によっている。 | ————— |
| 6 のれん及び負のれんの償却に関する事項 | のれんは10年で均等償却している。 | ————— |
| 7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 | 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。 | ————— |

(7)連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

| 項目 | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---------------------|--|---|
| 「資産除去債務に関する会計基準」の適用 | ————— | <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用している。これにより、当連結会計年度の営業利益及び経常利益がそれぞれ4百万円減少し、税金等調整前当期純損失が68百万円増加している。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は、96百万円である。</p> |

(8) 表示方法の変更

| 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|--|---|
| <p>(連結損益計算書関係)</p> <p>前連結会計年度において、営業外収益の「その他」に含めていた「還付消費税等」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記することとした。なお、前連結会計年度の営業外収益の「その他」に含まれる「還付消費税等」は0百万円である。</p> <p>前連結会計年度において、営業外費用の「その他」に含めていた「コミットメントフィー」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より区分掲記することとした。なお、前連結会計年度の営業外費用の「その他」に含まれる「コミットメントフィー」は117百万円である。</p> | <p>(連結損益計算書関係)</p> <p>前連結会計年度において、営業外収益の「匿名組合投資利益」として区分掲記されていたものは、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より営業外収益の「その他」に含めて表示することとした。なお、当連結会計年度の営業外収益の「その他」に含まれる「匿名組合投資利益」は22百万円である。</p> <p>前連結会計年度において、営業外費用の「手形売却損」として区分掲記されていたものは、営業外費用の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より営業外費用の「その他」に含めて表示することとした。なお、当連結会計年度の営業外費用の「その他」に含まれる「手形売却損」は9百万円である。</p> <p>前連結会計年度において、特別損失の「土地売却損」として区分掲記されていたものは、特別損失の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より特別損失の「その他」に含めて表示することとした。なお、当連結会計年度の特別損失の「その他」に含まれる「土地売却損」は6百万円である。</p> <p>当連結会計年度より「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純損失」の科目を表示している。</p> |

(9) 追加情報

| 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|--|---|
| <p>—</p> | <p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用している。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載している。</p> |

(10)連結財務諸表に関する注記事項
(連結貸借対照表関係)

| 前連結会計年度 (平成22年3月31日) | | 当連結会計年度 (平成23年3月31日) | |
|-------------------------|--|-------------------------|--|
| 1 | ※3 このうち、非連結子会社及び関連会社に対する金額は、次のとおりである。 投資有価証券(株式) 82百万円 | 1 | ※3 このうち、非連結子会社及び関連会社に対する金額は、次のとおりである。 投資有価証券(株式) 51百万円 |
| 2 | ※1 担保に供している資産 建物 1,185百万円 土地 3,447百万円 上記の担保資産が供されている債務 短期借入金 76百万円 長期借入金 1,863百万円 | 2 | ※1 担保に供している資産 建物 1,129百万円 土地 3,447百万円 上記の担保資産が供されている債務 短期借入金 76百万円 長期借入金 1,787百万円 |
| 3 | 保証債務 下記の会社の不動産前受金に対して保証を行っている。 ㈱タカラレーベン 45百万円 計 45 | 3 | 保証債務 下記の会社の不動産前受金に対して保証を行っている。 ㈱タカラレーベン 533百万円 ㈱ゴールドクレスト 356 計 889 |
| 4 | 受取手形裏書譲渡高 1百万円 | | |
| 5 | ※2 事業用土地の再評価 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っており、当該評価差額に係る税金相当分を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上している。 再評価を行った年月日 平成12年3月31日 同法律第3条第3項に「土地の再評価に関する法律定める再評価の方法 施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に、時点修正による補正等合理的な調整を行って算出している。 再評価を行った事業用土地の期末における時価の合計額と再評価後の帳簿価額との差額 240百万円 | 4 | ※2 事業用土地の再評価 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っており、当該評価差額に係る税金相当分を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上している。 再評価を行った年月日 平成12年3月31日 同法律第3条第3項に「土地の再評価に関する法律定める再評価の方法 施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に、時点修正による補正等合理的な調整を行って算出している。 再評価を行った事業用土地の期末における時価の合計額と再評価後の帳簿価額との差額 1,122百万円 |
| 6 | コミットメントライン 当社グループは運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結している。 取引銀行数 9行 コミットメントライン契約の総額 12,100百万円 借入実行残高 — 差引額 12,100 | 5 | コミットメントライン 当社グループは運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結している。 取引銀行数 9行 コミットメントライン契約の総額 12,100百万円 借入実行残高 — 差引額 12,100 |

(連結損益計算書関係)

| 前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------------|---------------|-----|----------|-----|----------|----|----|----|----|---------------|------|----------|-------------|----|--------|----------|-----|---|----|--|--|----|---|---------|----------|--------|-----|----------|-----|----|----|----|---------------|------|-----------------|------------|----|------|----------|------------|----|----|--|--|----|
| <p>1 ※1 このうち、工事進行基準による完成工事高 114,245百万円</p> <p>2 ※2 販売用不動産及び不動産事業支出金は収益性の低下に基づく簿価切下げ後の金額であり、たな卸資産評価損261百万円が不動産事業売上原価に含まれている。</p> <p>3 ※6 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額 80百万円</p> <p>4 ※3 このうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">4,251百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">600</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">170</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">43</td> </tr> </table> <p>5 研究開発費 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は598百万円である。</p> <p>6 ※4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上している。</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休資産</td> <td>建物 土地</td> <td>鹿児島県 他7件</td> <td style="text-align: center;">32</td> </tr> <tr> <td>建設事業資産</td> <td>建物 土地</td> <td>静岡県</td> <td style="text-align: center;">8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">41</td> </tr> </tbody> </table> | 従業員給料手当 | 4,251百万円 | 退職給付費用 | 600 | 賞与引当金繰入額 | 170 | 貸倒引当金繰入額 | 43 | 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) | 遊休資産 | 建物 土地 | 鹿児島県 他7件 | 32 | 建設事業資産 | 建物 土地 | 静岡県 | 8 | 合計 | | | 41 | <p>1 ※1 このうち、工事進行基準による完成工事高 134,154百万円</p> <p>2 ※2 販売用不動産及び不動産事業支出金は収益性の低下に基づく簿価切下げ後の金額であり、たな卸資産評価損321百万円が不動産事業売上原価に含まれている。</p> <p>3 ※6 完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額 533百万円</p> <p>4 ※3 このうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">4,185百万円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">572</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">108</td> </tr> </table> <p>5 研究開発費 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は591百万円である。</p> <p>6 ※4 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上している。</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賃貸資産</td> <td>建物 土地 借地権</td> <td>茨城県 他1件</td> <td style="text-align: center;">74</td> </tr> <tr> <td>遊休資産</td> <td>建物 土地</td> <td>静岡県 他6件</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">86</td> </tr> </tbody> </table> | 従業員給料手当 | 4,185百万円 | 退職給付費用 | 572 | 貸倒引当金繰入額 | 108 | 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) | 賃貸資産 | 建物 土地 借地権 | 茨城県 他1件 | 74 | 遊休資産 | 建物 土地 | 静岡県 他6件 | 12 | 合計 | | | 86 |
| 従業員給料手当 | 4,251百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付費用 | 600 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賞与引当金繰入額 | 170 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貸倒引当金繰入額 | 43 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遊休資産 | 建物 土地 | 鹿児島県 他7件 | 32 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建設事業資産 | 建物 土地 | 静岡県 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 41 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 従業員給料手当 | 4,185百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付費用 | 572 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貸倒引当金繰入額 | 108 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賃貸資産 | 建物 土地 借地権 | 茨城県 他1件 | 74 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 遊休資産 | 建物 土地 | 静岡県 他6件 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 86 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) | | | | | | | | |
|---|--|--------|---|-----------------|--------|------------|-----|-----------|-----|
| <p>当社グループは、賃貸資産及び遊休資産については、それぞれ個別の物件ごとに、また建設事業資産については、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分ごとにグルーピングを行っている。</p> <p>遊休資産の地価の下落及び建設事業資産の売却処分決定により、上記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（41百万円）として特別損失に計上している。その内訳は、建物25百万円、土地15百万円である。</p> <p>なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としている。また、正味売却価額は、帳簿価額に重要性のあるものについては不動産鑑定士による不動産鑑定評価額、それ以外については路線価等に基づき算定し、使用価値は将来キャッシュ・フローを2.6%で割り引いて算定している。</p> <p>7 ※5 このうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物除却損</td> <td style="text-align: right;">159百万円</td> </tr> </table> | 建物除却損 | 159百万円 | <p>当社グループは、賃貸資産及び遊休資産については、それぞれ個別の物件ごとに、また建設事業資産については、継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分ごとにグルーピングを行っている。</p> <p>賃貸資産の収益性の低下及び遊休資産の地価の下落により、上記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（86百万円）として特別損失に計上している。その内訳は、建物6百万円、土地79百万円、借地権1百万円である。</p> <p>なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い価額としている。また、正味売却価額は、帳簿価額に重要性のあるものについては不動産鑑定士による不動産鑑定評価額、それ以外については路線価等に基づき算定し、使用価値は将来キャッシュ・フローを2.6%で割り引いて算定している。</p> <p>7 ※5 このうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">過年度完成工事補償引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">392百万円</td> </tr> <tr> <td>災害損失引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">112</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式評価損</td> <td style="text-align: right;">100</td> </tr> </table> | 過年度完成工事補償引当金繰入額 | 392百万円 | 災害損失引当金繰入額 | 112 | 関係会社株式評価損 | 100 |
| 建物除却損 | 159百万円 | | | | | | | | |
| 過年度完成工事補償引当金繰入額 | 392百万円 | | | | | | | | |
| 災害損失引当金繰入額 | 112 | | | | | | | | |
| 関係会社株式評価損 | 100 | | | | | | | | |

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益

| | |
|--------------|----------|
| 親会社株主に係る包括利益 | 1,211百万円 |
| 少数株主に係る包括利益 | △25 |
| 計 | 1,185 |

※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

| | |
|--------------|--------|
| その他有価証券評価差額金 | 546百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | △8 |
| 為替換算調整勘定 | 34 |
| 計 | 572 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

| | 前連結会計年度末 株式数 | 当連結会計年度 増加株式数 | 当連結会計年度 減少株式数 | 当連結会計年度末 株式数 |
|---------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 85,488 | — | — | 85,488 |
| 合計 | 85,488 | — | — | 85,488 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 2,777 | 2 | 0 | 2,780 |
| 合計 | 2,777 | 2 | 0 | 2,780 |

(注) 株式数の増減事由

単元未満株式の買取りによる増加 2千株

単元未満株式の買増請求による売渡しによる減少 0千株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|
| 平成21年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 413百万円 | 5円 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月29日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|--------|-------|--------------|------------|------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 413百万円 | 利益剰余金 | 5円 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月30日 |

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

| | 前連結会計年度末 株式数 | 当連結会計年度 増加株式数 | 当連結会計年度 減少株式数 | 当連結会計年度末 株式数 |
|---------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 85,488 | — | — | 85,488 |
| 合計 | 85,488 | — | — | 85,488 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 2,780 | 0 | — | 2,780 |
| 合計 | 2,780 | 0 | — | 2,780 |

(注) 株式数の増減事由

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|--------|--------------|------------|------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 413百万円 | 5円 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月30日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|--------|-------|--------------|------------|------------|
| 平成23年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 124百万円 | 利益剰余金 | 1.5円 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月30日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) | |
|---|-----------|---|-----------|
| ※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 | | ※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 | |
| 現金預金勘定 | 18,603百万円 | 現金預金勘定 | 22,440百万円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | △248 | 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | △247 |
| 現金及び現金同等物 | 18,355 | 現金及び現金同等物 | 22,192 |

(セグメント情報等)

a. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

| | 建設事業 (百万円) | 不動産事業 (百万円) | 計(百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-----------------------------|---------------|----------------|---------|-----------------|-------------|
| I 売上高及び営業利益 | | | | | |
| 売上高 | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 149,094 | 10,630 | 159,725 | — | 159,725 |
| (2)セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 2,460 | 315 | 2,776 | △2,776 | — |
| 計 | 151,555 | 10,946 | 162,502 | △2,776 | 159,725 |
| 営業費用 | 147,438 | 10,555 | 157,993 | △912 | 157,081 |
| 営業利益 | 4,117 | 391 | 4,508 | △1,864 | 2,644 |
| II 資産・減価償却費・減損損失及 び資本的支出 | | | | | |
| 資産 | 77,143 | 31,431 | 108,574 | 24,593 | 133,168 |
| 減価償却費 | 743 | 225 | 969 | 81 | 1,051 |
| 減損損失 | 8 | — | 8 | 32 | 41 |
| 資本的支出 | 223 | 656 | 880 | △85 | 794 |

(注1) 事業区分の方法及び各区分に属する主要な事業の内容

1. 事業区分の方法

日本標準産業分類及び連結損益計算書の売上集計区分を勘案した。

2. 各区分に属する主要な事業の内容

建設事業 : 土木・建築その他建設工事全般に関する事業

不動産事業 : 不動産の販売、管理及び賃貸事業

(注2) 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額(その主なものは提出会社本社の総務部等管理部門にかかる費用である)

(前連結会計年度)

1,765百万円

(注3) 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額(その主なものは提出会社の長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等である)

(前連結会計年度)

26,938百万円

(注4) 減価償却費及び資本的支出には、長期前払費用の償却額及び増加額がそれぞれ含まれている。

(注5) 会計処理基準等の変更

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」の「4 会計処理基準に関する事項 (4) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおり、当連結会計年度より「工事契約に関する会計基準」を適用している。この変更に伴い、従来の方と比較して、当連結会計年度の建設事業の売上高が4,195百万円、営業費用が4,012百万円、営業利益が182百万円増加している。

b. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める「日本」の割合がいずれも90%を超えているため、連結財務諸表規則様式第二号に基づき、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

c. 海外売上高

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、連結財務諸表規則様式第三号に基づき、海外売上高の記載を省略している。

d. セグメント情報

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社は、建設事業を中心に事業活動を展開している。なお、「建設事業」及び「不動産事業」の2つを報告セグメントとしている。

「建設事業」は土木・建築その他建設工事全般に関する事業である。「不動産事業」は不動産の販売、管理及び賃貸事業である。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一である。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値である。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいている。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注1) | 連結財務 諸表計上額 (注2) |
|------------------------|---------|--------|---------|-------------|-----------------------|
| | 建設事業 | 不動産事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 149,094 | 10,630 | 159,725 | — | 159,725 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 2,460 | 315 | 2,776 | △2,776 | — |
| 計 | 151,555 | 10,946 | 162,502 | △2,776 | 159,725 |
| セグメント利益 | 4,117 | 391 | 4,508 | △1,864 | 2,644 |
| セグメント資産 | 77,143 | 31,431 | 108,574 | 24,593 | 133,168 |
| その他の項目 | | | | | |
| 減価償却費 | 743 | 225 | 969 | 81 | 1,051 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 223 | 656 | 880 | △85 | 794 |

(注1) 調整額は以下のとおりである。

- セグメント利益の調整額△1,864百万円には、セグメント間取引消去△98百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,765百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。
- セグメント資産の調整額24,593百万円には、セグメント間取引消去△2,344百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産26,938百万円が含まれている。
- 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△85百万円には、セグメント間取引消去△120百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産35百万円が含まれている。

(注2) セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注1) | 連結財務 諸表計上額 (注2) |
|------------------------|---------|--------|---------|-------------|-----------------------|
| | 建設事業 | 不動産事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 150,252 | 10,136 | 160,389 | — | 160,389 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 3 | 178 | 182 | △182 | — |
| 計 | 150,255 | 10,315 | 160,571 | △182 | 160,389 |
| セグメント利益 | 2,027 | 696 | 2,724 | △1,681 | 1,042 |
| セグメント資産 | 80,064 | 23,564 | 103,629 | 23,867 | 127,496 |
| その他の項目 | | | | | |
| 減価償却費 | 405 | 651 | 1,057 | 83 | 1,140 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 257 | 15 | 272 | 48 | 321 |

(注1) 調整額は以下のとおりである。

- (1) セグメント利益の調整額△1,681百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,689百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。
- (2) セグメント資産の調整額23,867百万円には、セグメント間取引消去△200百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産24,067百万円が含まれている。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額48百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産48百万円が含まれている。

(注2) セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。

(追加情報)

当連結会計年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用している。

e. 関連情報

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略した。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略した。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の90%を超えるため、記載を省略した。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載していない。

f. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

| | 建設事業 | 不動産事業 | 全社・消去(注) | 合計 |
|------|------|-------|----------|----|
| 減損損失 | — | 74 | 12 | 86 |

(注) 全社・消去の金額はすべて各報告セグメントに配分していない全社資産に係る金額である。

g. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

| | 建設事業 | 不動産事業 | 全社・消去 | 合計 |
|-------|------|-------|-------|-----|
| 当期償却額 | — | 52 | — | 52 |
| 当期末残高 | — | 432 | — | 432 |

(1株当たり情報)

| 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) | |
|--|--|--|--|
| 1 | 1株当たり純資産額 312.31円 | 1 | 1株当たり純資産額 248.28円 |
| 2 | 1株当たり当期純利益金額 7.81円 | 2 | 1株当たり当期純損失金額(△) △58.32円 |
| 3 | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載していない。 | 3 | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載していない。 |

(注) 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

| | 前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-------------------------------------|--|--|
| 当期純利益金額又は当期純損失金額(△) (百万円) | 646 | △4,823 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る当期純利益金額又は当期純 損失金額(△)(百万円) | 646 | △4,823 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 82,708 | 82,707 |

(重要な後発事象)

特記事項なし。

(開示の省略)

リース取引、金融商品、有価証券、退職給付、税効果会計、賃貸等不動産、資産除去債務及び関連当事者情報等に関する注記事項については、決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略している。

5. 個別財務諸表
(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成22年3月31日) | 当事業年度 (平成23年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 15,588 | 19,398 |
| 受取手形 | 5,914 | 1,320 |
| 完成工事未収入金 | 35,757 | 41,982 |
| 不動産事業未収入金 | 90 | 137 |
| 販売用不動産 | 2,222 | 1,360 |
| 未成工事支出金 | 2,094 | 1,061 |
| 不動産事業支出金 | 9,302 | 4,987 |
| 材料貯蔵品 | 64 | 63 |
| 短期貸付金 | 487 | 84 |
| 未収入金 | 72 | 3,198 |
| 繰延税金資産 | 423 | 1,169 |
| 仮払金 | 6,388 | 3,310 |
| その他 | 531 | 478 |
| 貸倒引当金 | △43 | △71 |
| 流動資産合計 | 78,895 | 78,481 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 12,008 | 11,952 |
| 構築物 | 603 | 603 |
| 機械及び装置 | 1,102 | 1,090 |
| 車両運搬具 | 30 | 30 |
| 工具器具・備品 | 658 | 658 |
| 土地 | 15,086 | 14,575 |
| リース資産 | 288 | 382 |
| 減価償却累計額 | △10,394 | △10,706 |
| 有形固定資産合計 | 19,384 | 18,586 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 259 | 148 |
| その他 | 248 | 250 |
| 無形固定資産合計 | 508 | 398 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 14,016 | 11,412 |
| 関係会社株式 | 6,458 | 6,523 |
| 出資金 | 317 | 270 |
| 長期貸付金 | 61 | 59 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 156 | 173 |
| 関係会社長期貸付金 | 334 | 733 |
| 破産更生債権等 | 3,223 | 2,007 |
| 長期前払費用 | 37 | 31 |
| 繰延税金資産 | 3,708 | 2,606 |
| その他 | 422 | 455 |
| 貸倒引当金 | △2,680 | △1,791 |
| 投資その他の資産合計 | 26,056 | 22,481 |
| 固定資産合計 | 45,949 | 41,466 |
| 資産合計 | 124,845 | 119,947 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成22年3月31日) | 当事業年度 (平成23年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 7,918 | 8,456 |
| 工事未払金 | 31,788 | 35,401 |
| 短期借入金 | 27,990 | 26,354 |
| 1年内償還予定の社債 | 520 | 400 |
| 未払金 | 475 | 342 |
| 未払法人税等 | 168 | 152 |
| 未成工事受入金 | 7,300 | 7,972 |
| 預り金 | 2,890 | 4,016 |
| 完成工事補償引当金 | 147 | 539 |
| 賞与引当金 | 468 | — |
| 工事損失引当金 | 79 | 530 |
| 希望退職制度引当金 | — | 1,329 |
| 災害損失引当金 | — | 112 |
| その他 | 121 | 116 |
| 流動負債合計 | 79,869 | 85,724 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 1,750 | 1,350 |
| 長期借入金 | 10,475 | 5,433 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 4,721 | 4,693 |
| 退職給付引当金 | 3,250 | 3,220 |
| その他 | 580 | 612 |
| 固定負債合計 | 20,776 | 15,309 |
| 負債合計 | 100,646 | 101,033 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 8,985 | 8,985 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 2,246 | 2,246 |
| その他資本剰余金 | 3,227 | 3,227 |
| 資本剰余金合計 | 5,474 | 5,474 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 買換資産積立金 | 513 | 492 |
| 繰越利益剰余金 | 5,842 | 651 |
| 利益剰余金合計 | 6,356 | 1,144 |
| 自己株式 | △459 | △459 |
| 株主資本合計 | 20,357 | 15,145 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 808 | 775 |
| 土地再評価差額金 | 3,033 | 2,993 |
| 評価・換算差額等合計 | 3,842 | 3,768 |
| 純資産合計 | 24,199 | 18,913 |
| 負債純資産合計 | 124,845 | 119,947 |

(2) 損益計算書

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 売上高 | | |
| 完成工事高 | 147,414 | 145,938 |
| 不動産事業売上高 | 3,262 | 6,942 |
| 売上高合計 | 150,677 | 152,880 |
| 売上原価 | | |
| 完成工事原価 | 137,110 | 137,742 |
| 不動産事業売上原価 | 3,029 | 6,297 |
| 売上原価合計 | 140,140 | 144,039 |
| 売上総利益 | | |
| 完成工事総利益 | 10,304 | 8,195 |
| 不動産事業総利益 | 232 | 644 |
| 売上総利益合計 | 10,536 | 8,840 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 209 | 199 |
| 従業員給料手当 | 3,922 | 3,837 |
| 賞与引当金繰入額 | 159 | — |
| 退職給付費用 | 598 | 565 |
| 法定福利費 | 622 | 686 |
| 福利厚生費 | 51 | 45 |
| 修繕維持費 | 160 | 153 |
| 事務用品費 | 320 | 273 |
| 通信交通費 | 584 | 589 |
| 動力用水光熱費 | 75 | 74 |
| 調査研究費 | 305 | 273 |
| 広告宣伝費 | 49 | 39 |
| 貸倒引当金繰入額 | 30 | 105 |
| 貸倒損失 | 42 | — |
| 交際費 | 188 | 179 |
| 寄付金 | 8 | 18 |
| 地代家賃 | 377 | 337 |
| 減価償却費 | 209 | 211 |
| 租税公課 | 225 | 196 |
| 保険料 | 78 | 46 |
| 雑費 | 349 | 311 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 8,571 | 8,146 |
| 営業利益 | 1,965 | 693 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 35 | 36 |
| 受取配当金 | 263 | 252 |
| 受取保険金 | 15 | 29 |
| 匿名組合投資利益 | 57 | — |
| 還付消費税等 | 159 | 44 |
| 受取遅延損害金 | 67 | 56 |
| その他 | 21 | 63 |
| 営業外収益合計 | 620 | 482 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1,004 | 795 |
| 社債利息 | 49 | 38 |
| 為替差損 | 3 | 60 |
| 手形売却損 | 40 | — |
| コミットメントフィー | 158 | 118 |
| その他 | 74 | 61 |
| 営業外費用合計 | 1,330 | 1,074 |
| 経常利益 | 1,255 | 101 |
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 293 | 319 |
| 投資有価証券売却益 | 244 | 265 |
| その他 | — | 64 |
| 特別利益合計 | 538 | 649 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 41 | 86 |
| 投資有価証券評価損 | 313 | 2,095 |
| 貸倒引当金繰入額 | 952 | 260 |
| 希望退職制度引当金繰入額 | — | 1,329 |
| 土地売却損 | 40 | — |
| 固定資産除却損 | 164 | — |
| その他 | 111 | 1,046 |
| 特別損失合計 | 1,624 | 4,817 |
| 税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△) | 169 | △4,066 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 120 | 120 |
| 法人税等調整額 | △362 | 652 |
| 法人税等合計 | △242 | 772 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 412 | △4,839 |

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 8,985 | 8,985 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | — |
| 当期末残高 | 8,985 | 8,985 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 前期末残高 | 2,246 | 2,246 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | — |
| 当期末残高 | 2,246 | 2,246 |
| その他資本剰余金 | | |
| 前期末残高 | 3,227 | 3,227 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | △0 | — |
| 当期変動額合計 | △0 | — |
| 当期末残高 | 3,227 | 3,227 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 5,474 | 5,474 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | △0 | — |
| 当期変動額合計 | △0 | — |
| 当期末残高 | 5,474 | 5,474 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 買換資産積立金 | | |
| 前期末残高 | 535 | 513 |
| 当期変動額 | | |
| 買換資産積立金の取崩 | △22 | △21 |
| 当期変動額合計 | △22 | △21 |
| 当期末残高 | 513 | 492 |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 5,861 | 5,842 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 買換資産積立金の取崩 | 22 | 21 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 412 | △4,839 |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 当期変動額合計 | △19 | △5,190 |
| 当期末残高 | 5,842 | 651 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 利益剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 6,397 | 6,356 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 412 | △4,839 |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 当期変動額合計 | △41 | △5,211 |
| 当期末残高 | 6,356 | 1,144 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | △458 | △459 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 当期変動額合計 | △0 | △0 |
| 当期末残高 | △459 | △459 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 20,398 | 20,357 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 412 | △4,839 |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 当期変動額合計 | △41 | △5,211 |
| 当期末残高 | 20,357 | 15,145 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 261 | 808 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 546 | △32 |
| 当期変動額合計 | 546 | △32 |
| 当期末残高 | 808 | 775 |
| 土地再評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 2,949 | 3,033 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 84 | △40 |
| 当期変動額合計 | 84 | △40 |
| 当期末残高 | 3,033 | 2,993 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) | 当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 前期末残高 | 3,210 | 3,842 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 631 | △73 |
| 当期変動額合計 | 631 | △73 |
| 当期末残高 | 3,842 | 3,768 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 23,609 | 24,199 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △413 | △413 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 412 | △4,839 |
| 自己株式の取得 | △0 | △0 |
| 自己株式の処分 | 0 | — |
| 土地再評価差額金の取崩 | △40 | 40 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 631 | △73 |
| 当期変動額合計 | 590 | △5,285 |
| 当期末残高 | 24,199 | 18,913 |

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし。

6. その他

(1) 個別受注の概況

① 受注高

(単位：百万円)

| 期別 区分 | | 前事業年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 | 当事業年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日 | 比較増減 | 増減率 % | |
|----------|----|------------------------------------|------------------------------------|----------|----------|---------|
| 建設事業 | 建築 | 国内官公庁 | 23,207 | 19,600 | △ 3,606 | △ 15.5 |
| | | 国内民間 | 136,104 | 112,295 | △ 23,809 | △ 17.5 |
| | | 海外 | 122 | 487 | 364 | 296.9 |
| | | 計 | 159,434 | 132,384 | △ 27,050 | △ 17.0 |
| | 土木 | 国内官公庁 | 9,096 | 4,143 | △ 4,952 | △ 54.4 |
| | | 国内民間 | 709 | 3,825 | 3,116 | 439.3 |
| | | 海外 | 1,012 | — | △ 1,012 | △ 100.0 |
| | | 計 | 10,818 | 7,969 | △ 2,848 | △ 26.3 |
| | 合計 | 国内官公庁 | 32,303 | 23,744 | △ 8,558 | △ 26.5 |
| | | 国内民間 | 136,814 | 116,120 | △ 20,693 | △ 15.1 |
| | | 海外 | 1,135 | 487 | △ 647 | △ 57.0 |
| | | 計 | 170,253 | 140,353 | △ 29,899 | △ 17.6 |
| 不動産事業 | | — | — | — | — | |
| 合計 | | 170,253 | 140,353 | △ 29,899 | △ 17.6 | |

② 売上高

(単位：百万円)

| 期別 区分 | | 前事業年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 | 当事業年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日 | 比較増減 | 増減率 % | |
|----------|----|------------------------------------|------------------------------------|---------|----------|--------|
| 建設事業 | 建築 | 国内官公庁 | 27,634 | 24,528 | △ 3,106 | △ 11.2 |
| | | 国内民間 | 110,545 | 111,531 | 985 | 0.9 |
| | | 海外 | 82 | 304 | 222 | 271.6 |
| | | 計 | 138,262 | 136,364 | △ 1,897 | △ 1.4 |
| | 土木 | 国内官公庁 | 6,133 | 5,792 | △ 340 | △ 5.6 |
| | | 国内民間 | 2,598 | 3,369 | 771 | 29.7 |
| | | 海外 | 419 | 410 | △ 9 | △ 2.2 |
| | | 計 | 9,152 | 9,573 | 421 | 4.6 |
| | 合計 | 国内官公庁 | 33,768 | 30,321 | △ 3,446 | △ 10.2 |
| | | 国内民間 | 113,144 | 114,901 | 1,756 | 1.6 |
| | | 海外 | 502 | 715 | 213 | 42.5 |
| | | 計 | 147,414 | 145,938 | △ 1,476 | △ 1.0 |
| 不動産事業 | | 3,262 | 6,942 | 3,679 | 112.8 | |
| 合計 | | 150,677 | 152,880 | 2,203 | 1.5 | |

③ 次期繰越高

(単位：百万円)

| 期別 区分 | | 前事業年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 | 当事業年度 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日 | 比較増減 | 増減率 % | |
|----------|----|------------------------------------|------------------------------------|---------|----------|--------|
| 建設 事業 | 建築 | 国内官公庁 | 30,331 | 25,404 | △ 4,927 | △ 16.2 |
| | | 国内民間 | 114,274 | 115,037 | 762 | 0.7 |
| | | 海外 | 40 | 225 | 184 | 451.3 |
| | | 計 | 144,647 | 140,667 | △ 3,980 | △ 2.8 |
| | 土木 | 国内官公庁 | 9,122 | 7,473 | △ 1,648 | △ 18.1 |
| | | 国内民間 | 1,960 | 2,416 | 455 | 23.2 |
| | | 海外 | 614 | 203 | △ 410 | △ 66.9 |
| | | 計 | 11,697 | 10,093 | △ 1,603 | △ 13.7 |
| | 合計 | 国内官公庁 | 39,454 | 32,877 | △ 6,576 | △ 16.7 |
| | | 国内民間 | 116,235 | 117,453 | 1,218 | 1.0 |
| | | 海外 | 655 | 428 | △ 226 | △ 34.5 |
| | | 計 | 156,345 | 150,760 | △ 5,584 | △ 3.6 |
| 不動産事業 | | — | — | — | — | |
| 合計 | | 156,345 | 150,760 | △ 5,584 | △ 3.6 | |